

# 続・ふるさと

## こぼれ話

### 日露戦争と芳賀町②

先月号では、新聞に掲載された日露戦争に従軍した兵士からの手紙を紹介した。そのほかにも兵士から、自宅へ手紙が届いている。そのほかを紹介する。

写真1の手紙から見てみよう。この手紙は明治三十七年（一九〇四）八月



写真2

写真1

一三日の日付がある。はがきには国旗が描かれ、左上には「武運長久」と書かれている。内容は先月、栃木をおそった暴風雨についてふれ、被害の状況や、衛生面に気を付けるように気づかっている。暴風雨については、戦地に届けられた新聞な

どから知ったのであろう。みずからの戦地での様子は、ほんの数行だけで、あまり詳しくふれていない。無事であることだけを伝え、家族に心配をあまりかけないようにとの思いからであろう。

写真2のはがきは、いまでいう年賀状で、新年のあいさつを伝えているだけであるが、「戦勝国之祝」の文字と、背景に描かれた日本の国旗をはじめ兵隊や軍艦など戦時下であることを思わせる絵が多数描かれている。

戦地からの手紙は、カラフルであるが、それがかえって戦争の悲惨さを紛らわそうとしているだけに思える。

### 第7回

### 編集後記

□落ち鮎の季節になりました。那珂川沿いのヤナでは、今が最盛期で観光客が押し寄せています。

□晩秋に産卵を控えた鮎たちが、産卵場所を求めて下流へ下ります。孵化して海へ下る子どものため。子孫を多く残す。その習性を利用した漁法がヤナです。

□卵をいっぱいを持った鮎を賞味されたことはありますか？天然の鮎、しかも子持ちとなるとヤナではなかなか味わえません。焼かれているほとんどの鮎は養殖で、取れた天然の鮎は高級料亭行き、という話です。

■栃木で味わえる旬の味覚。せめて地元には...と思うのですが、難しいのでしょうか。(ネタ)



Nycticorax nycticorax (全長58cm)

成鳥は頭上と背中が光沢のある群青色で、後頭部より長く長い冠羽が出ている。翼の上面は灰色で、胸から腹の部分は白色で、脚は黄色。目の部分の虹彩は夜行性のために赤色である。幼鳥は全体が茶褐色で上面に斑模様があり、脚は黄青色である。幼鳥はホシゴイとも呼ばれている。幼鳥も成鳥も雌雄同色である。

他のサギと異なって、首は短く太い。体は丸くずんぐりとしている。ミゾゴイやササゴイなど名前にゴイが付くサギ類は同じような体型をしている

ゴイサギは古くからの野鳥で平家物語の中に登場している。「醍醐天皇が神泉苑の池を荒らしたサギを捕まえさせたら、勅命に神妙に従ったので五位の位を授かった」と書いてあるが、実は宮中の五位の位の衣装の色がゴイサギの白と群青色である。

■編集 芳賀町広報広聴委員会  
☎028(677)6032 ✉kouhou@town.haga.tochigi.jp  
■発行 芳賀町企画課  
栃木県芳賀郡芳賀町大字祖母井1020番地  
■芳賀町ホームページアドレス <http://www.town.haga.tochigi.jp>  
■苦情専用フリーダイヤル ☎0120(753)898

